

第11回 まちとすまいの集い

超高齢社会の「すまい」を考える

日時 2009年11月21日(土) 13:20 ~ 16:30

場所 名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール

主催 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学教室

後援 (社)日本建築学会 東海支部

(社)空気調和・衛生工学会 中部支部

(社)建築設備技術者協会 中部支部

(社)日本建築家協会 東海支部

(財)名古屋都市センター

(社)日本建築構造技術者協会 中部支部

連携 なごや環境大学

プログラム

13:20 主催者挨拶 (建築学教室主任 清水裕之)

13:30 講演1 生田京子「住み続けるための地域デザインー高齢者の住まいとサポートのこれからー」

14:20 講演2 古川忠稔「高齢者住宅の耐震化ーわが家を巨大地震からどう守るかー」

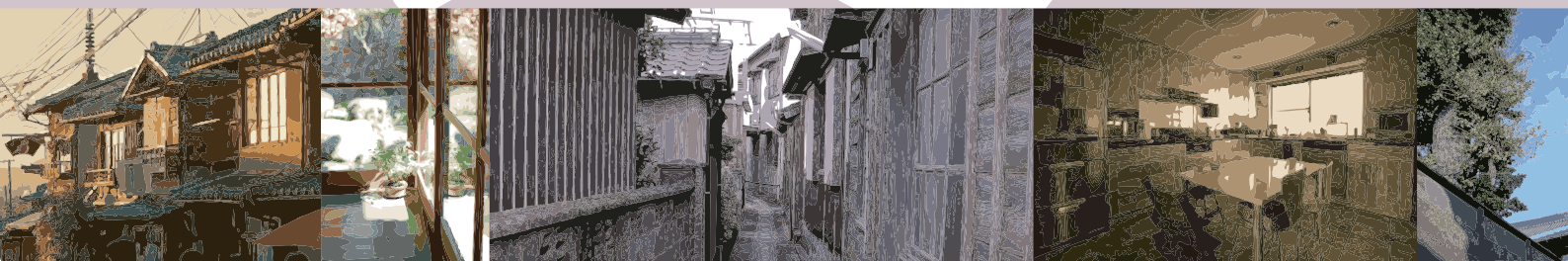
15:10 休憩

15:20 講演3 齋藤輝幸「住宅内の安全安心ー温度環境と急病発生状況ー」

16:10 質疑応答・ディスカッション

司会: 谷口元

なお、12:30より各種展示、環境シミュレーションスタジオ、地域防災交流ホール(4階)をご覧になれます。



第 11 回 まちとすまいの集い

超高齢社会の「すまい」を考える

日本の高齢化率は 2008 年で22%に達し、75 歳以上も10%を越えて、世界に類を見ない超高齢社会となった。それに伴い、社会活動のあらゆる面で高齢者対応が求められている。もちろん、生活の基本となる「すまい」は最も重要なポイントの一つである。バリアフリーなどのキーワードは従来から一般的に用いられているが、今後は計画、環境、構造の各面からよりトータルな対応を行っていくことが必要とされる。

今回のまちとすまいの集いでは、そのような取り組みを紹介し、これからの超高齢社会における「まちとすまい」のすがたを考えてみたい。

日 時 2009 年 11 月 21 日（土）13：20 ～ 16：30

場 所 名古屋大学環境総合館 1 階レクチャーホール（下図参照）

参加費 無料

定 員 100 名

主 催 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学教室

後 援（社）日本建築学会 東海支部
（社）空気調和・衛生工学会 中部支部
（社）建築設備技術者協会 中部支部
（社）日本建築家協会 東海支部
（財）名古屋都市センター
（社）日本建築構造技術者協会 中部支部

連 携 名古屋大学環境工学部はなごや環境大学連携講座です。

【お申込み方法】
必要事項を記入し、FAX または郵送にてお申込み下さい。

【お申込み・お問い合わせ先】
名古屋大学建築学教室
まちとすまいの集い事務局（担当：田村，山岡）
〒464-8603 名古屋市中千種区不老町 C2-5(652)
TEL：052-789-5233



キリトリ線

講演概要

生田京子（いくた きょうこ）

専門分野：建築計画、住環境、高齢者福祉環境、
教育環境、地域施設配置計画



「住み続けるための地域デザイン－高齢者の住まいとサポートのこれから－」

高齢者のための福祉環境を「住まい」と「サポート」面からみていくと、地域によって極めて異なる状況が進行している。都市部では、在宅サポートの拠点が充実している一方で、高齢者住宅の欠如が著しい。一方、山間部などに目を転じると、人口減少にともない高齢者福祉のサポートの存続が困難になりつつある。本講演では、高齢者が地域に暮らし続けるために求められる環境について、現状分析とその課題を地域ごとに論じる。加えて、高齢者のための良好な「住まい」のあり方について事例をもちいつつ解説する。

古川忠稔（ふるかわ ただし）

専門分野：構造力学、耐震工学、木質構造



「高齢者住宅の耐震化－わが家を巨大地震からどう守るか－」

日本は世界有数の地震国であり、大きな地震がおきたときに耐震性の低い建物が倒壊し、多くの被害が発生している。東海地域においても、災害弱者となりやすい高齢者が多く住む木造住宅では耐震性が不足していることが多く、このことが東海・東南海地震のような巨大地震発生時に大きな問題となることが指摘されている。しかし、この木造住宅の耐震化は順調に進んでいるとは言いがたいのが現状である。今後の超高齢化社会の到来を踏まえ、なぜ高齢者住宅の耐震化が進まないのか、何が障害となっているのか、どうすればよいかについて考えてみたい。

齋藤輝幸（さいとう てるゆき）

専門分野：建築環境工学、設備工学



「住宅内の安全安心－温度環境と急病発生状況－」

近年の急速な高齢化、高齢単身者や高齢夫婦のみの世帯数の増加に対して、安全で快適な住環境が望まれている。住宅の温熱環境に関しては、断熱性や気密性を高める技術開発が進んでいるが、トイレや浴室などの非居室は使用頻度が少ないことや使用時間が短いため、居室に比べ軽視されがちであり、居室と非居室の室温差は必ずしも縮まっていない可能性がある。本講演では、住宅内非居室で発生する急病に注目して、名古屋市消防局による救急出動記録の分析やトイレ使用時を想定した被験者実験の結果などを紹介し、住宅内環境や生活習慣の改善について論じたい。

名古屋大学 平成21年度 まちとすまいの集い 参加申込用紙

氏名 所属

住所 〒

電話 FAX

E-mail

事務局 / FAX：052-789-3773 申込締切：11月11日(水)